

R6年度 松戸市こども発達センターの取り組み報告

1. 通園施設での医療的ケア児支援の状況

- ① 福祉型（7クラス71名）：
 - ・ 5歳児気管切開1名⇒気管内吸引、バス乗車時の看護師添乗
- ② 医療型（1クラス7名）：
 - ・ 5歳児経鼻経管栄養1名⇒単独通園時の口鼻腔吸引、経鼻経管栄養
 - ・ 4歳児胃ろう・CPAP1名⇒単独通園時給食（初期食）注入、CPAP装着

2. R6年度取り組み状況

- ・ 福祉型の児童は、バス送迎が開始され、週1回は登園している。
- ・ 医療型では、5月より3歳から5歳児まで1日3組までの単独通園が開始となり、他事業所を併用されながら、定期的に週2回位のご利用がある。その他、週1回は親子通園を設けている為、水療育や音楽療法、クリスマス会などの行事にも参加し、保護者同志の情報共有の場にもなっている。
- ・ 担任の保育士は、会館内2階に配置されている専門職（PT・OT・ST・ORT・心理士）に、発達状況に応じた療育のアドバイスを受けている。また、摂食外来の歯科医師からの指導を受け、口腔機能の維持に努めている。

3. 今後の課題

- ① 「福祉型」「医療型」の一元化
中核拠点として専門人材を配置しており、地域の関係機関と連携した支援の取組を進めていく。（保育所等訪問支援や巡回指導、等）
- ② 喀痰吸引研修の推進
R7年度予算要求をおこない、保育士の資格取得を進めていく。
- ③ ICTシステムの導入
事業所評価において、保護者からの要望が聞かれており、バスのGPS機能は取り入れたが、単独通園のスケジュールリング等、他のシステムの導入についても進めていきたい。
- ④ 医療的ケア児指示書の見直し
保護者の記入書類が複雑かつ膨大な量があり、簡素化の必要を迫られている。特に、指示書については、見直したい。